

自分たちの力で遊びや活動を進める幼児の育成 ～劇づくりにおける関わり合いや話し合い活動の援助を通して～

石垣市立わかば幼稚園
教諭 玉城 志織

I テーマ設定の理由

近年、社会が急激に変化し、価値観・生活様式の多様化が進む中で、少子化や核家族化など幼児を取り巻く環境も著しく変化している。幼児の育ちについても人・地域・社会との関わり希薄化によるコミュニケーション能力の不足、自制心や耐性、規範意識が十分に育っていないなどの課題が指摘されている。

平成30年4月に施行された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」では、3歳児以上の幼児教育について整合性が図られた。幼児教育は環境を通して行う教育を基本とし、自発的な遊びを通しての指導を中心とする中で育みたい3つの資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が示された。領域「人間関係」においては、ねらい(2)に「工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わうことや、内容の取扱い(1)に「諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもつこと等の文言が新たに加えられた。人と関わる力を養うために教師は、身近な人との関わりの中で自己発揮しながら多様な感情を体験できるような環境構成や、関わりを深め、試行錯誤しながらやり遂げることができるような援助の工夫、場面に応じた様々な役割を果たしていくこと等が求められている。

本園は、4～5歳児混合21名の幼児が在籍している。豊かな自然に囲まれ、また市内でも珍しい幼小併置校と年齢幅の広い人的環境に恵まれ、行事や日常生活で小中学生に憧れの気持ちを持ちながら交流を楽しんでいる。園内においては様々なことに興味関心を持ち、友達と好きなキャラクターになりきって遊んだり、砂場遊びや運動遊びなどを楽しんだりしている。しかし中には、夢中になれる遊びを見付けられず傍観している子、遊びを展開したいときや問題が起きたときに、自分たちで話し合って解決することができず、遊びを諦めてしまう子の姿も見られる。それは、幼児が好奇心や探求心をもって挑戦する「自立心」や、友達と協力して活動を進める「協同性」を育むための環境構成や援助の工夫が足りなかったことが要因の一つと考える。

そこで本研究では、一人一人に出番や役割があること、集団の中で考えを伝え合い、話し合う場があること、共通のイメージや目的を持ち、友達と協力して作り上げる経験ができることで自立心や協同性が育まれると考え、劇づくりを設定する。教師は、幼児がやりたいことや役割を見付けて挑戦する中で自己発揮したり、互いの主張がぶつかり、葛藤や折り合いを付けたりする体験を重ねられるよう、幼児理解に基づいた環境構成や援助の工夫に努める。自己発揮や試行錯誤しながらやり遂げることで自信が付き、幼児の自立心や協同性が生まれ、自分たちの力で遊びや活動を進める幼児の育成につながるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

仮説1 劇づくりにおいて、幼児が安心して自己発揮したり、友達の良さや考えの違いに気付いたりできるような環境構成を工夫することで、幼児同士が協力したり折り合いを付けたりし、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができるだろう。

仮説2 共通の目的に向かう中で、教師が幼児理解に基づいた援助を工夫することにより、安心して友達と試行錯誤しながらやり遂げる体験を通して自立心や協同性が生まれ、自分たちで遊びや活動を進める力が育つだろう。

Ⅲ 研究内容

1 自分たちの力で遊びや活動を進める幼児とは

本研究の目指す幼児像「自分たちの力で遊びや活動を進める幼児」とは、遊びや活動の中で、主体的・対話的で深い学びをしている幼児と捉える。汐見(2017)は「さあ、子どもたちの『未来』を話しませんか」の中で「主体的」「対話的」「深い」について下記のように定義している。

- ①「主体的」・・・人に言われてではなく、自分からやりたいと思っている姿。
- ②「対話的」・・・自分ひとりで解決しようとしなくて、人と直接対話し刺激し合っていること。
- ③「深い」・・・自分の持っている知識と新しい情報が頭の中で結びつき、子どもの感情が動く。

この定義をもとに、本研究の目指す幼児像を「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」と関連付けると、次のように考えることができる(図1)。

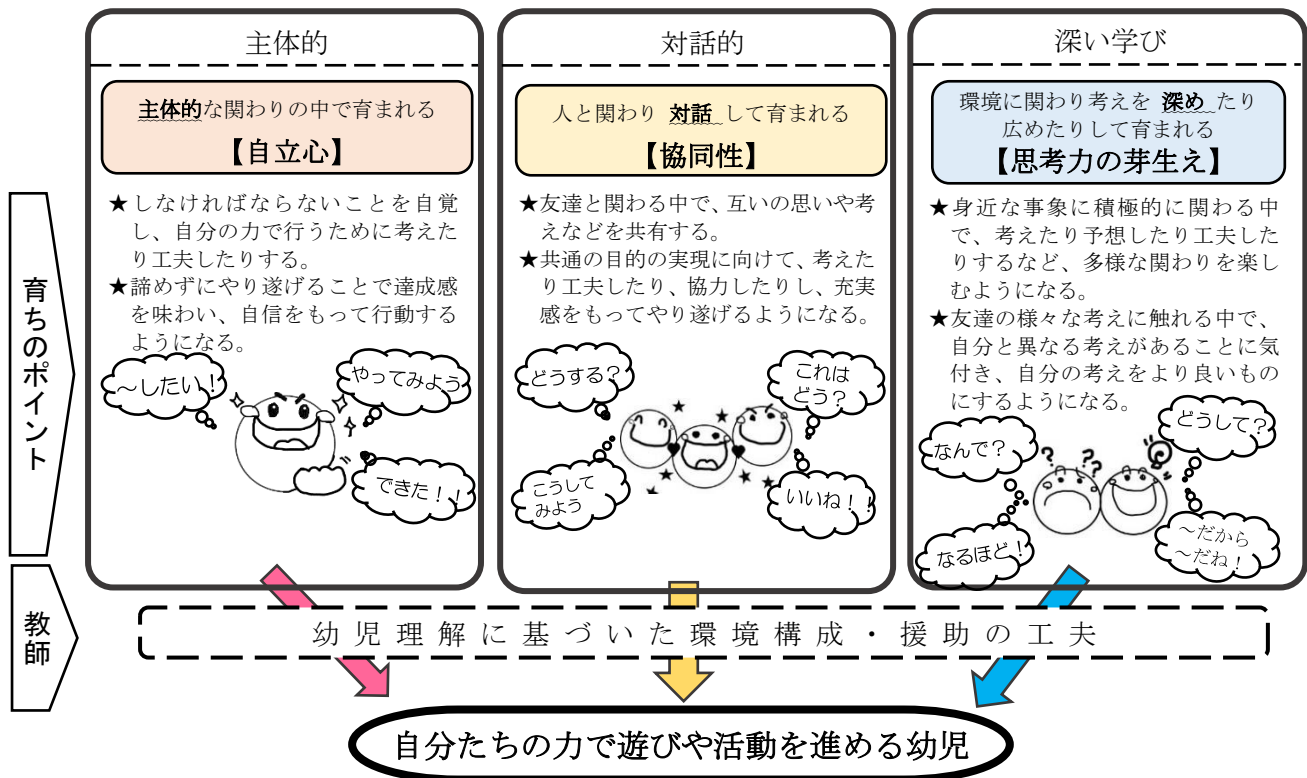


図1 目指す幼児像と育ち・援助のポイント

2 自分たちの力で遊びや活動を進める幼児を育成するための工夫

(1) 幼児を「理解する」こと

神長・岩立・岡上・結城(2019)「幼児理解の理論と方法」において、幼児理解をすることについて、「子ども一人一人の行動の特性や発達特性(その子どもらしい見方、考え方、感じ方、関わり方など)、健康・安全に関する状況等に関する理解を深めることが、一人一人の子どもの特性や発達に即した保育の展開を可能にする」と述べている。主体的・対話的で深い学びにつながるような遊びや活動の展開を実践するために、幼児の興味関心や姿、育ちや学びについての読み取りや幼児理解のもと、保育を構成していくことが重要である。

(2) 環境構成の工夫

幼児教育における環境とは遊具や素材だけではなく、「人・物・場」など幼児が関わるすべてのものを指す。環境構成とは幼児が関わる環境について、活動のねらいの達成や、幼児の園生活・学びが豊かなものになるよう、幼児の成長・発達に合わせて工夫し構成していくことである。本研究においては、幼児が興味関心をもって主体的に活動し、友達との関わりを深め、自分たちの力で遊びや活動を進める幼児を育成できるような環境構成について考える。

本研究の目指す幼児像を育成するための環境構成について人・物・場に分けて整理した（表1）。

表1 自分たちの力で遊びや活動を進める幼児を育成するための環境構成の例（筆者作成）

人	≪教師≫・安心できる関係 ・教育環境を整える ・幼児を理解する ・モデルとしての役割 ・教職員同士の協力体制 ・信頼関係	≪友達≫・考えや思いを伝え合える友達 ・考えや思いが違う友達 ・励ましたり認め合ったりできる友達 ・一緒に活動する人数やメンバー
物	・興味関心をもてる絵本の配置 ・水槽の配置 ・考えたり工夫したりして使用できる素材 ・情報機器の使用（動画撮影→視聴できる環境）	
場	・作ったり試したりしたくなる場 ・楽しい雰囲気 ・じっくり取り組める十分な時間 ・安心して自己発揮できる（思いや考えが言える、やりたいことができる）場 ・思いや考えを伝え合い、話し合える場 ・活動の振り返りができる場 ・共通の目的や約束、自分の育ちの可視化 ・自分や友達のいいところや頑張りに気付ける場（時間・場所・雰囲気）	

(3) 援助の工夫

幼稚園教育要領において、活動の展開と教師の援助について「幼児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をすること」と示されている。本研究において幼児は集団の中で自分の思いや考えを主張（自己発揮）し、ときに葛藤し折り合いを付け（気持ちや自己を調整し）ながら、友達との関わりを深め、共通の目的に向かって試行錯誤していくことで、協同性が育まれていくと考え、幼児が気持ちを調整するための教師の援助についてまとめる。

① 折り合いを付けるとは

幼稚園教育要領の領域「人間関係」内容(8)「友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする」の解説において「イメージや目的を共有し、それを実現しようと、幼児たちが、ときには自己主張がぶつかり合い、折り合いを付けることを繰り返しながら、工夫したり、協力したりする楽しさや充実感を味わうようになっていく。」とある。この折り合いを付けることについて、無藤・古賀(2016)は「社会情動的スキルを育む『保育内容 人間関係』」において、幼児が自分の思いを様々に表現し（思いを出す）、みんなへとつながりを広げ（つながる）自分がどうしたいのか自分自身と向き合っていく（向き合う）ことを繰り返し、折り合う心「気持ちを調整する力」が育まれていくとしている。無藤らの「気持ちを調整する姿を育む保育における3つの要素」の表を参考に自己発揮から自己調整するまでの教師の援助についてまとめる（表2）。

表2 幼児の自己発揮から自己調整をするまでの教師の援助

気持ちを調整する発達の視点の3つの要素	気持ちの調整につながる過程（・）	「教師の援助の3つの要素」と具体的な援助 (○保育者の援助 □環境構成 ★具体的な援助)
「思いを出す」	・自分の思いに気付く ・自分の思いを出す（動きや表情） ・自分の思いを伝える（言葉）	「受け止める」 ○表情やよすから思いを読み取り受け止める援助 ★温かく見守る ★共感する ★気持ちを受け止める ★認める ★問いかける ★一緒に考える ★待つ ★思いを引き出す □幼児の関わりを広げに合わせた保育者との距離 ★安心できる雰囲気づくり
「つながる」	・友達の話聞く ・友達の思いや考えの違いに気付く ・友達に働きかける ・話し合う ・自分の意見が通る ・解決策や折衷案を出す	「つなぐ」 ○思いを言葉で伝えたり、知ったりできるように代弁し、つなぐ援助 ★足りない言葉を補う ★代弁する ★問いかける ★違いを考える間を大切に ★認める ★励ます ★一緒に考える ★見守る □幼児同士の関わりが生まれる遊具や材料の配置や数 ★発達に合った挑戦する遊びを取り入れる ★ルールのある遊びを楽しむ機会をつくる
「向き合う」	・自分自身と向き合う ・解決策を受け入れる ・納得する	「ともに向き合う」 ○自分を振り返り、自分と向き合う幼児を支える援助 ★認める ★一緒に考える ★価値づける ★互いに納得しているかを表情や様子から読み取る □自分自身が振り返ることができる時間や間、場所を確保すること ★話し合い活動 ★発表タイム

※無藤ら(2016)の「気持ちを調整する姿を育む保育における3つの要素」の表を参考に、気持ちの調整につながる過程（・）と具体的な援助（★）を筆者が追記

3 劇づくりに関する学びや育ちの過程と育つ力について

(1) 劇づくりとは

田川・兵庫保育問題研究会（2010）は「劇づくりに育つ子どもたち」の中で、劇づくりについて「舞台上で観ることをめざして、集団でより良い劇をつくりあげること」としている。本研究においては、日常生活の中で幼児が興味関心のあるテーマや物語を見付け、イメージを共有し役になりきって遊んだり表現したりする演じ遊びの過程を経て、話の流れや登場人物、セリフや動き、必要な道具等を集団で話し合い、教師の援助のもと、幼児の力で劇を作りあげていくことと定義する。

また、4歳児・5歳児の発達段階や個の育ちによって自己発揮や協同性の力が違うことを理解し、劇づくりの中で個に応じた必要な経験ができるように工夫する必要がある。

(2) 劇づくりとその過程で育まれる力、教師の援助について

劇づくりでは興味関心を引き出し、イメージを共有するところから始まり、物語や登場人物を決めたりするなどの様々な過程がある。それぞれの場面で幼児理解を深め、教師の役割や援助について考え、適切に行うことで、幼児は多様な経験をし、様々な力が育まれていくと考える。

田川ら(2010)が示している劇づくりの流れをもとに、その過程で育まれる力、教師の役割や援助について、次のように考え、表にまとめた(表3)。

表3 劇づくりに育まれる力と教師の援助

劇づくりの流れ	幼児の姿	幼児の育つ力 (10の姿の視点より)	教師の役割・援助
【開始期】 ・劇の軸になるテーマや物語を決定する。	○たくさんの絵本から、どの物語がいいか考える。 ○やってみよう物語を友達と話し合う。 ○全員で話し合い、決定する(▲、■)。	【自立心】 *諦めずにやり遂げる。 *やりたいことに挑戦できる。 *しなければならないことを自分の力でやり遂げる。 *集団の中で自分の思いや考えを伝える。 *うまくいかないときに立ち直ることができる。	【幼児に対して】 ・目的を明らかにする。 ・肯定的に捉える。 ・幼児理解を深める。 ・モデルになる。(やりすぎない!) ・認める。 ・共感する。 ・ヒントを出す。 ・活動の流れが生まれるような問いかけをする。 ・見守る。 ・十分に考えたり話し合ったりできるように計画に見通しをもつ。 ・思いや考えを伝え合える場づくり。 ・必要に応じて代弁者になる。 ・思いや考えの橋渡しをする。 ※幼児主体であることに留意し、先導しすぎたり援助をしすぎたりしてしまわないように気を付ける。
【初期】 ・登場人物になりきりいろいろな場面を想像して遊ぶ。	○登場人物や場面についてイメージを広げる。 ○イメージしたものを楽しみながら表現し、見せ合う。	【協同性】 *友達とイメージを共有する。 *共通の目的に向かって協力する。 *友達の思いや考えを受け止める。 *思いや考えの違いに気付く。 *友達の気持ちや立場を考えて行動する。 *自分の気持ちをコントロールする。 *折り合いを付ける。	【保護者に対して】 ・園通信の発行 - 育ちを読み取る視点 - 劇づくりのねらい、様子 - 育っている姿 - 今頑張っていること - 葛藤場面 - 気持ちの動き - 教師の援助
【中期】 ・演じる場面(ピース)を決める。 ・場面を膨らませ、演出する。 ・場面をつなぐ。 ・必要な道具や衣装を考える。 ・配役を決定し、つないだ場面で演じてみる。	○どの場面を劇に入れるかや場面の順番等を話し合って決める(▲、■)。 ○自分がどの役をしたいかを考え、伝える(▲)。 ○話し合いをし、配役を決める(■)。 ○場面を演じてみて、必要な道具や衣装について考え、材料や作り方を話し合う(■、▲)。	【その他】 *想像力 *充実感 *達成感 *表現を楽しむ。 *対象の生き物をよく観察する。 *活動に見通しをもつ。 *約束やルールの大切さに気付く。 *友達や年下の子を思いやる。 *公共の施設を大切に使う。 *時計を意識して行動する。 *文字を使った看板づくりや掲示。 *絵本に親しむ。	
【後期】 ・道具や衣装を仕上げる。 ・場面ごとに演じ、表現の仕方をより良くする。	○衣装や道具を作る。 ○場面ごとに見せ合い、声の大きさや表現の仕方などより良くするために試行錯誤する(■)。 ○発表会本番に向けて気持ちを高め、励まし合う。		
【発表会当日】 ・進行や道具の出し入れ等、自分達で行う。	○自分たちで協力し合い進行する。 ○緊張しながら励まし合い乗り越えようとする。		

▲…自分の気持ちを言えない幼児が予想される場所

■…幼児の葛藤や幼児同士の意見のぶつかり合いが予想される場所

※田川浩三・兵庫保問研編著『劇づくりに育つ子どもたち』を参考に筆者が作成。

IV 保育実践

1 劇づくり実践計画

(1) 共通目的：「みんなが楽しい劇づくり」をしよう

(2) 約束：自分の気持ちを言う、友達の話聞く、みんなで力を合わせる、諦めない

(3) 劇のテーマ：はっぴいちゃん（亀）

はっぴいちゃんとは、今年度幼児が園庭で見つけて捕まえた子亀である。飼育の方法や餌、気を付けることなどを自分たちで調べて話し合い、園で飼うことになった。大切に世話を続けていることから幼児が共通して興味関心をもっている事柄であると考え、劇のテーマとして設定した。

(4) 活動計画

時	日	劇づくりの期と内容	ね ら い	読み取りの視点（自：自立心、協：協同性）
1	11/9 (火)	【開始期】 軸となるテーマや物語を決める。 ・絵本を読み、物語の世界観を楽しむ。 ・全員で話し合い、どう劇にしたいかなどを見いだす。	○劇づくりに向けてイメージを広げる。 ○思いや考えを友達と伝え合おうとする。	*物語の世界を十分に楽しんでいるか。 *劇づくりについて「やってみよう」と前向きな期待をもっているか。(自) *自分の気持ちを言えているか。(自) *劇づくりをしていくための共通の目的を見いだせているか(理解しているか)。
2	11/11 (木)			
3	11/17 (水)			
4	11/18 (木)	【初期】 登場人物になりきって遊ぶ。 いろいろな場面を想像し遊ぶ。 ・様々な動物になりきり、いろいろな動きをする。 ・表現を見せ合い、互いの良さを認め合う。	○イメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。 ○演じて遊ぶ楽しさを味わう。	*登場人物についてイメージを広げて表現しているか。(自) *イメージしたものを身体で表現することを楽しんでいるか。 *友達の表現を見て、いいところを見つけて伝えたり、真似したりしているか。
5	11/26 (金)			
6	11/30 (火)	【中期】 演じる場面、順番を決める。 配役を決定し演じる。 必要な道具や衣装を決め、準備する。 ・場面や配役について話し合っ決めて。 ・イメージを豊かにし、物語の世界を表現する。 ・場面ごとに話し合い、演じる。 ・必要な道具や衣装について話し合い、作り始める。	○個々のイメージを広げ、友達と一緒に表現することを楽しむ。 ○友達の考えを聞いた、自分の考えを伝えたりする。 ○友達と共通の目的を持ち、考えを出し合いながら劇づくりを進めていく。	*自分がやりたい役を、自分で決めることができるか。(自) *役や場面について、友達と話し合っ決めてすることができるか。(協) *場面ごとに演じる中で、表現の仕方について、友達とイメージを広げながら話し合っているか(協) *互いに伝え合い、認め合う姿が見られるか。(協) *演じる中で、必要な道具や衣装について自分たちで考えているか。(協) *困難なことにも挑戦しようとしているか。(自)
7	12/1 (水)			
8	12/2 (木)			
9 本時	12/3 (金)			
10	12/7 (火)			
11	12/8 (水)	【後期】 場面ごとに舞台上で演じる。 表現の仕方(声の出し方や動き)について話し合い、より良くする。 ・舞台上で場面ごとに演じて見せ合ったり、全体を通して演じてみたりする。 ・演じる楽しさを感じながら、楽しい表現や伝わる表現についてアイデアを出し合う。 ・道具や衣装を仕上げ、実際に使ったりしながら、出し方なども考える。	○友達と共通の目的に向かって、試行錯誤しながら劇づくりを進める。 ○友達と協力したり折り合いを付けたりしながら作り上げる楽しさを味わう。 ○自分の力を発揮して取り組み、満足感を味わう。	*舞台で伸び伸びと表現できているか。(自) *劇をより良くするための話し合いができているか。(協) *話し合いが上手いかなくても、乗り越えようとしているか。(協) *友達の思いや考えに気付き、思いやりをもって接しようとしているか。(協) *共通の目的を意識しながら、劇づくりをしているか。(協)
12	12/9 (木)			
13	12/14 (火)			
14	12/15 (水)			
15	12/16 (木)	【仕上げ・確認】 ・本番同様に演じ、表現や衣装、道具、進行について確認する。	○本番に向けて、互いに認め合い、期待を高める。	*自分たちの力で確認することができるか。(自) *発表会に期待をもっているか。
16	12/17 (金)	【本番】 ・自分の力を十分に発揮し、友達と協力してやり遂げ、達成感と満足感を味わう。	○友達と共通の目的に向かって、心と力を合わせ、やり遂げる。	*自分の力を発揮し、やり遂げようとしているか。(自) *友達と力を合わせ、自分たちで進めることを楽しんでいるか。(協)
17	12/20 (月)	【振り返り】 ・ビデオや発表で生活発表会を振り返り、頑張ったことや嬉しかったことを思い出す。 ・互いに認め合い、自信をもつ。	○生活発表会を振り返り、認め合うことで自信をもつ。	*振り返りの中で、自分の思いや考えを話すことができるか。(自) *自分の成長を自覚し、自信をもつことができるか。(自) *友達と互いの良さを認め合うことができるか。(協)

2 幼児の育ちの読み取りと評価について

実践を通して本研究の目指す幼児像に迫れたかを検証するため、教師の読み取り・幼児自身の評価・保護者による評価を実施する。

(1) 具体的評価基準を用いた幼児の育ちの読み取り（教師）

具体的評価基準とは、幼児の育ちについて、数値的評価ではなく、具体的な育ちや行動を示したものである。本研究の目指す幼児像（自分たちの力で遊びや活動を進める幼児）に迫るために、幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿より「自立心」と「協同性」の育ちについて具体的評価基準を設けた(表4)。なお、年齢基準は想定される育ちの順序を目安として示している。しかし、幼児の発達や特性によって、年齢基準の順番通りに育つものではないと考える。一人一人異なる育ちを読み取るために具体的評価基準を用いてスキルマップとして読み取りシートを作成した(図2)。活動の中で幼児の育ちが見られたときに印を入れることで、一目で把握でき、保育カンファレンスにおいて教師同士の共通理解を図ることができると考える。

表4 自立心・協同性の具体的評価基準（筆者作成）

年齢基準	4歳児		5歳児		
	自立心	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろいろなことに挑戦しようとしている	失敗してもできるまで続けることができる
協同性	自分の思いや考えを友達に伝える	友達の思いや考えを知る	友達と思いや考えを共有する	互いの良さを認め合いながら、協力したり折り合いを付けたりする	共通の目的にむかって友達と一緒に試行錯誤しながらやり遂げる

「自立心」読み取りシート（教師用）

時期	やりたいことを自分で選んで行動する	自分の力でやろうとする	いろいろなことに挑戦しようとしているか	失敗しても出来るまで続けることができるか	諦めずにやり遂げる
1 初期(11月18日)					
2 中期(12月3日)					
3 最終(12月20日)					
4 その他(1月21日)					
5 A児					
6 B児					
7 C児					
8 D児					
9 E児					
10 F児					

具体的評価基準

図2 読み取りシートの例

(2) 幼児自身の評価

劇づくりの中で幼児自身が自分で頑張ったことやできるようになったことを自覚し、自信をもって日常生活に生かせるようにするため、「はっぴいちゃんの金の池(図3)」を用いて育ちの見える化を行う。見える化の方法は、劇づくりの活動ごとに、共通の目的（みんなが楽しい劇づくり）・約束（自分の気持ちを言う・友達の話を聞く・力を合わせる・諦めない）を守れたかどうかを幼児自身が振り返る。達成の度合いに応じて金・銀・普通の池のシートに自分の亀の印を貼る。振り返りの見える化は、幼児自身が自分の達成度を目で確認することができ、育ちや課題を自覚したり、満足感を味わい次の活動への意欲を高めたりすることにつながると考える。また振り返りは幼児が素直に振り返ったり、教師が個別に問いかけたり認めたりできるよう、教師と1対1で行うこととする。



図3 はっぴいちゃんの金の池

(3) 保護者による評価

劇づくりについての園通信「はっぴいつうしん」を週1~2回発行し、自立心や協同性の育ちの視点や劇づくりのねらい・過程、幼児の様子、教師の援助等について保護者へ知らせる。保護者は通信を読むことで、教師と共通の視点を持ち、変容の読み取りや活動を理解することにつながると考える。また、劇づくりについてどのように感じたか、家庭での幼児の変容があったかなど、保護者による読み取り・評価を調査するため、生活発表会終了後にアンケートを実施する。

3 本時の指導

(1) 日時 12月3日(金) 【9/17回目】

(2) 活動のねらい

《年長児》

- ・できないことや難しいことにも挑戦し、満足感を味わう。(自立心)
- ・共通の目的に向かい、友達と協力したり話し合ったりし、試行錯誤しながら活動することを楽しむ。(協同性)

《年中児》

- ・自分の役割ややりたいことに挑戦し、満足感を味わう。(自立心)
- ・友達と思いや考えを伝え合いながら、表現する楽しさを味わう。(協同性)

(3) 本時の記録

●幼児の動き ◎教師の援助 □環境構成		幼児について 読み取り 自:自立心、協:協同性
活動内容	環境構成・援助	
<p><場面ごとの練習></p> <ul style="list-style-type: none"> ●各場面に分かれて練習を始める(図4)。 ●休みが多いときは別の場面と一緒に練習をする。 ●縄跳びや鉄棒などの道具を使い、順番を決めたり、実際にやってみたりする。  <p>【図4】場面ごとの練習の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ●時計を確認し、終了時刻になったことを知らせ合う。 	<p>◎今日の流れを説明し、場面ごとの練習終了時刻を予め知らせる。</p> <p>◎一人しかいないところに声をかけ、他の場面と一緒に練習するよう声をかける。</p> <p>◎保育室を広々使えるよう、各チームに広がるよう声をかける。(□安全面の配慮)</p> <p>◎各場面をまわり、つまづいているところを見守ったり、声かけしたりする。</p>  <p>【図5】他のチームに感想やアドバイスを伝える</p> <p>□思いや考えを伝え合える場の設定。</p> <p>◎必要に応じて思いや考えの橋渡しをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *自分の運動遊びを練習したいと嫌がるが、説明を聞いて納得することができた。 *欠席の役を考慮し、別の幼児が代わりに行うなど臨機応変に対応しようとしている。 *互いに声をかけたり、教え合ったりしながら練習を進めている。(協) *時計を見て、自分たちで活動の区切りを判断できている。(自) *見られて緊張している様子があるが、チーム内で声を掛け合っている。(協) *頑張っているところを認め合っている。(協) *より良くするための方法を考え、自分の言葉で伝えている。(自、協) *失敗して諦めそうになったが、友達の声かけで何度も挑戦している。(自) *みんなで応援し、できたことを喜び合っている。(協) *前回より頑張れたことを自覚でき、次の池に移せることを喜んでいる。 *金の池に貼れなかった子は「次は金に行けるように頑張る」と意欲を見せている。(自)
<p><場面ごとに前で演じて見せ合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ●道具を準備し、みんなの前で演じてみる。 ●演技を見た後、観客役は「よかったところ」「こうしたほうが良いところ」を発表する(図5)。 ●友達を応援したり、一緒に喜んだりしている。 	<p>◎一人一人と話し、今日の活動をしっかり振り返ることができるようにする。</p>  <p>【図6】教師と1対1で振り返る様子</p>	
<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ●活動を思い出し、自分が頑張ったことや約束を守れたことなどを振り返る(図6)。 ●自分の印(はっぴいちゃん)を、達成の度合いに応じた池に貼っていく。 		

V 研究の考察

本研究の仮説に基づき、劇づくりにおいて教師の幼児理解に基づいた環境構成・援助の工夫をすることで、幼児が自己発揮し、幼児同士の関わり合いや話し合いを深めることにつながったか、また、試行錯誤しながらやり遂げることで自立心や協同性が育まれ、自分たちの力で遊びや活動を進める幼児の育成につながったかを検証する。

1 研究仮説1の検証

劇づくりにおいて、幼児が安心して自己発揮したり、友達の良さや考えの違いに気付いたりできるような環境構成の工夫をすることで、協力したり折り合いを付けたりし、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができるだろう。

(1) 「場」の環境構成

① 見通しをもった劇づくりの計画と活動

劇づくりを開始期～振り返りに分け、活動の過程や幼児の姿、援助や環境構成についての計画を作成したことで、教師は見通しをもって進めることができ、適切な環境構成や援助をすることにつながった。また活動に見通しをもてたことで、教師主導ではなく幼児主体の話し合いや練習の時間を設定できる等、ゆとりをもって劇づくりを進めることができた(図7)。



図7 じっくり話し合う様子

② 演じ遊びの場を多く設定する

物語を演じるだけでなく、自由に想像し演じて遊ぶ時間を多く設定した。表現することに緊張感や苦手意識が強い幼児には、場の雰囲気を楽しむことから始め、友達と誘い合い参加できるよう工夫した(図8)。「みんなでやると楽しい」

「やってみたら楽しかった」「みんなが笑ってくれると嬉しい」という体験は、自分らしく意欲的に表現することや安心して自己発揮することにつながった(図9)。



図8 友達と一緒なら楽しい!



図9 みんなが笑ってくれると嬉しい!

③ 話し合いの場の工夫

初めから全員での話し合いではなく、場面ごとに少人数で話し合えるようにした。少人数だと自分の思いを伝えやすく、またその場の全員が納得できる決定をしやすいため、思いを出す体験や折り合いを付ける体験ができ、気持ちを調整しながら、自分たちで解決しようとする姿につながった。また、話し合いの時間を確保したことで、幼児がじっくり考え、友達の思いや考えの違いに気付いたり、受け止めたりし、幼児同士が「つながり」、「向き合う」話し合いにつながった。



図10 少人数で何度も話し合う場



④ 動画を使った振り返り

劇づくりの様子を動画で撮影し、観て振り返った。自分たちが演じている動画を観ることで、声の大きさや立ち位置、楽しさが伝わるかななどを客観的に捉えることができ、アイデアを出し合って試行錯誤しながら劇づくりを進めることができた。



図11 動画で振り返り、演技に活かす様子

(2) 「人」の環境構成

① 互いの頑張りを認め合い、励まし合える雰囲気づくり

振り返りの場で自分自身の頑張りが楽しかったことだけでなく、友達の良かったところや、アドバイスなども伝え合うことで、互いに認め合いながら、より良くしていこうとする意識につながった。教師は、幼児が友達の良いところを見つけたことや、アドバイスを受け入れた姿などを認め価値づけすることで、幼児同士が認め合い励まし合う雰囲気づくりができ、幼児が安心して自己発揮する姿につながった。



図12 友達の頑張りを応援する様子

② 保護者との連携

「はっぴいっしん」を通して、劇づくりの目的や視点、活動の様子などを知らせたことで共通理解を図ることができた。また家庭での劇づくりについての会話や励ましの言葉は、幼児が最後まで意欲的に参加する姿につながった。保護者も「ただ観る」だけでなく、協同性や自立心の育ちについての視点をもって観ることができたと考える。

【研究仮説1の考察】

幼児の姿を読み取り、劇づくりのねらいや教師の願いを織り交ぜて計画を作成し、「場」や「人」の環境を構成したことで、幼児が安心して自己発揮したり、幼児同士が関わりを深め、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができた。図13の幼児の変容からも、少人数の練習の場での自己発揮や友達に認められ応援される温かい雰囲気が、安心感や自信につながり、試行錯誤しながら劇づくりに取り組むことができたと考える。



図13 幼児が自己発揮していく様子

2 研究仮説2の検証

共通の目的に向かう中で、教師が幼児理解に基づいた援助を工夫することにより、安心して友達と試行錯誤しながらやり遂げる体験を通して自立心や協同性が育まれ、自分たちの力で遊びや活動を進める幼児の育成につながるだろう。

(1) 教師の幼児理解と援助の工夫

① 具体的評価基準の設定と読み取りシート（スキルマップ）の活用

活動で育みたい幼児の姿について具体的評価基準を設定し、読み取りシートにて読み取りを行った。具体的な評価基準を設定することで、教師同士が幼児の育ちについて共通の視点で読み取ることにつながった。また読み取りシートは、個々の育ちや課題について一目で把握でき、教師同士が幼児や保育の課題・援助について伝え合いやすくなり、共通理解のもと保育を進めることができた。読み取りシート（図14、15）からは、期ごとに印が増えて（育って）いく様子や、個によって育っている力が

「自立心」読み取りシート（教師用）

観察日	自立心	自己表現	友達との関わり	試行錯誤
1 A児	○	○	○	○
2 B児	○	○	○	○
3 C児	○	○	○	○
4 D児	○	○	○	○
5 E児	○	○	○	○
6 F児	○	○	○	○
7 G児	○	○	○	○
8 H児	○	○	○	○
9 I児	○	○	○	○
10 J児	○	○	○	○
11 K児	○	○	○	○
12 L児	○	○	○	○
13 M児	○	○	○	○
14 N児	○	○	○	○
15 O児	○	○	○	○
16 P児	○	○	○	○
17 Q児	○	○	○	○
18 R児	○	○	○	○
19 S児	○	○	○	○
20 T児	○	○	○	○
21 U児	○	○	○	○

図14 自立心読み取りシート

「協同性」読み取りシート（教師用）

観察日	協同性	自己表現	試行錯誤	自立心
1 A児	○	○	○	○
2 B児	○	○	○	○
3 C児	○	○	○	○
4 D児	○	○	○	○
5 E児	○	○	○	○
6 F児	○	○	○	○
7 G児	○	○	○	○
8 H児	○	○	○	○
9 I児	○	○	○	○
10 J児	○	○	○	○
11 K児	○	○	○	○
12 L児	○	○	○	○
13 M児	○	○	○	○
14 N児	○	○	○	○
15 O児	○	○	○	○
16 P児	○	○	○	○
17 Q児	○	○	○	○
18 R児	○	○	○	○
19 S児	○	○	○	○
20 T児	○	○	○	○
21 U児	○	○	○	○

図15 協同性読み取りシート

が違ふことが読み取れる。しかし、活動の中で育ちがあまり見られなかった幼児もいるため、長期的な計画で個に応じた援助をし、自立心や協同性を育んでいく必要があると考える。

② 教師の援助

活動における育ちの過程や葛藤場面について予想し、また個々の幼児の育ちや課題を把握したことで、「見守る」「言葉を補う」「問いかける」「価値づけする」など、個や場に応じた援助をすることができた。また、教師は過度にならないように丁寧に読み取って判断し、個や場に応じた適切な援助をしたことで、幼児が安心して友達と試行錯誤しながら活動する姿につながったと考える。



図16 個別に問いかけ、他児とつなぐ援助

(2) 共通の目的に向かい、友達と試行錯誤しながらやり遂げる体験

① 共通のイメージをもつ

幼児・クラスの興味関心を捉え、テーマを設定したことで、共通のイメージをもつことができ、意欲的に劇づくりに参加し、最後まで楽しみながら取り組む姿につながった。

② 劇づくりの約束

劇づくりの目的や約束を掲示し、活動のたびに確認したり振り返ったりしたことで、幼児が意識しながら劇づくりを進めることができた。

③ 幼児自身の振り返り

「はっぴいちゃんの金の池」を使い、幼児自身の振り返りを見える化した。振り返りをする中で今日は頑張ったという満足感や、次はもっと頑張ろうという意欲の高まりにつながった。自身の育ちや課題を自覚しながら劇づくりに意欲的に取り組んだことで、幼児自身の自己発揮や協同して活動する姿につながったと考える。

また教師と1対1で振り返ることで、教師は個に応じた問いかけができ、幼児の頑張りを個別に認めることができた。







劇づくり初期	金の池 (2名)	銀の池 (9名)	普通の池 (7名)	「友達の話を開けなかった」「ドキドキしてあまり楽しくできなかった」と銀・普通の池に貼る幼児が多い。
				
劇づくり終了後	金の池 (18名)	銀の池 (1名)	普通の池	欠席が多く活動や振り返りができなかった幼児1名が銀の池だが、それ以外の幼児は活動のたびに移動し、終了後には金の池に貼っている。
				

図17 劇づくりの初期と終了後の幼児自身の振り返りを比較

【研究仮説2の考察】

教師が活動ごとに幼児の育ちを読み取り、深く理解したことで、幼児の思いや考え、葛藤場面について肯定的に捉えることができ、より個に応じた援助をすることができた。教師の個や場に応じた援助によって、幼児が安心して気持ちを調整する(思いを出す・つながる・向き合う)ことができ、自分たちの力で諦めずに話し合ったり挑戦したりする姿につながったと考える。

共通のイメージや目的をもち、楽しさや頑張りを自覚して、何度も話し合ったり試したりしながら劇づくりをすることで、自立心や協同性が育まれたと考える。また、幼児一人一人に育っている力は違うが、互いに刺激し合い、協力し、友達を思いやる力が育ってきていることで、自分たちの力で遊びや活動を楽しむ姿が見られるようになった。

保護者アンケートからは劇づくりに関する意見や保護者が読み取った幼児の変容に関する記述が見られ、劇づくりが有効であったと考えることができる。



図18 自立心や協同性が育まれていく幼児の様子

- 大人たちから「これをしなさい」と言われるのではなく、一から自分たちで作っていくこと、凄くいい経験をしたと思います。
- 「自分が上手にできるように」頑張っていた保育所時代と比べ、「みんなで上手にできるように」の意識が育っているように思いました。
- 「～したらいいなって思ったよ」「私は～な方が好きだな」「それいいね」…相手を尊重したり、自分の意見を一方的にならないように伝える話し方をするが増えました。

図19 保護者アンケートより(一部抜粋)

VI 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 幼児の育ってほしい姿について具体的評価基準を設けることで、教師同士が共通の視点で幼児を読み取ることにつながり、より充実した保育カンファレンスを実施できた。
- (2) 読み取りシートを活用することで、幼児の育ちや課題が明確になり、教師の願いと活動のねらいを織り交ぜた保育の構想、個や場に応じた環境構成・援助を工夫することができた。
- (3) 演じる場・話し合いの場・振り返りの場において環境構成を工夫したことで、幼児が協力したり折り合いを付けたりし、試行錯誤しながら劇づくりを進めることができた。
- (4) 教師が個や場に応じた援助をしたことで、幼児が安心して自己発揮することや、友達と関わりを深め、認め励まし合う温かい雰囲気づくりができた。
- (5) 劇づくりの活動の中で、共通の目的を掲示して意識させたことで話し合いが深まり、主張のぶつかりや葛藤場面も自分たちで解決しようとするようになった。
- (6) 友達と試行錯誤しながらやり遂げた経験や、活動を通して得た自信・達成感によって幼児に自立心や協同性が芽生え、自分たちで遊びや活動を進める力が育ってきている。
- (7) 通信を通して、保護者と劇づくりの過程や幼児の様子、読み取りの視点、教師の援助について共通理解を図ることができ、活動への理解や見守りにつながった。

2 課題

- (1) 自立心・協同性以外の「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の具体的評価基準を設定して活用し、長期的な計画で育むための工夫。
- (2) 幼児を理解し、集団の中で個（特性や発達）に応じた援助の工夫。
- (3) 保護者へ活動の様子の伝え方の工夫（回数や内容、方法等）。
- (4) 幼小連携・接続を意識し、園での取り組みや幼児の育ちについて小学校との共通理解を図るための工夫。

《主な引用文献・参考文献》

- ・文部科学省 平成30年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館
- ・無藤隆編著 2018年 『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』 東洋館出版社
- ・關章信 兵頭恵子 高橋かほる 2019年 『遊びや生活の中で“10の姿”を育む保育』 チャイルド本社
- ・無藤隆監修 2021年 『まるっと解説！やさしい三法令』 学研
- ・無藤隆監修 2018年 『事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係』 萌文書林
- ・無藤隆 古賀松香編著 2016年 『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」』 北大路書房
- ・神長美津子 岩立京子 岡上直子 結城孝治編著 2019年 『幼児理解の理論と方法』 光生館
- ・汐見稔幸 2017年 『さあ、子どもたちの「未来」を話しませんか』 小学館
- ・田川浩三 兵庫保育問題研究会編著 2010年 『劇づくりで育つ子どもたち』 かもがわ出版
- ・新沢としひこ(文) 後藤美月(絵) 2009年 『イギリス民話 カメのえんそく』 フェリシモ出版
- ・やぎたみこ 2010年 『かめだらけおうこく』 イースト・プレス

《参考URL》

- ・『集団の中で「主体性」を育むために園ができること』ベネッセ教育総合研究所
https://berd.benesse.jp/up_images/magazine/booklet_22_p02-15.pdf
- ・『人とかかわりを豊かにする教育の推進』兵庫県教育委員会
<https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/youtien/youtiennsidounotebiki.pdf>